



青空のもとでクラスマッチ ～スポーツの秋を満喫！～

11月12日(金)は、待ちに待ったクラスマッチ。高校のクラスマッチは、中学校と違い学年を越えて全校のクラスが対決します。秋は、部活が終わり貫録を増した3年生に、新鋭の1, 2年生がどのように食い込んでいくかが見どころ。男子サッカーと男女バスケで熱戦が繰り広げられました。また、皆で協力し合い親睦を深めるのがとても大切です。みんな、いい笑顔でいい汗をかいていました。



秋の読書週間はじまる② ～私による「おすすめ本」紹介～

11月10日(水)のSHRは、私が「おすすめ本」を紹介する日。光栄にもリクエストを受けた2年2組にお邪魔して、本の紹介をしてきました。書名は『記憶を拓く 信州 半島 世界』(信濃毎日新聞社)です。これは先日、新聞記者の教え子が贈ってくださり、とても良い本なので紹介しました。

朝鮮半島と深い関係がある信州。それは太平洋戦争末期、通称『松代大本営地下壕』が軍部によって建設されたときです。そこでは多くの朝鮮人労働者が建設に従事しました。秘密裏でしたから戦後関係書類は失われ、“幻の大本営地下壕”と言われていました。ところが最近、朝鮮人労働者の氏名と住所を含む関係文書が、アメリカ議会図書館にあることがわかりました。そこで、それを調べた信濃毎日新聞の記者が韓国に訪れ、生存者と関係者に会いに行くルポルタージュがメインです。

この本は対韓国だけでなく国際化した現在の世界に、普遍的な国際交流の在り方を考えさせる良書なので、お勧めします。本校図書館にもあります。



困ったお話(その51) (穴があったら入りたい)

社会人として元気に仕事をしている教え子と再会することは、教師冥利に尽きる喜びだ。特に教え子から、『現在の私があるのも高校時代の恩師であった先生のお陰です』と言われたことは、生涯の誇りとして記憶にとどめたい、が記憶にない。かわりに『先生の授業のお陰で、薬を使わない睡眠導入技術を開発できました!』とか、『お父さんの寝言がうるさかったお陰で、クーポン券を忘れちゃったじゃないの!』など、身に覚えのない訳のわからないことを言われ困っている。

また、再会時のシチュエーションも大切だ。以前病院に入院したことがあった。その時には教え子である院内の医師や看護師がお見舞いに来てくれた。うれしかったが、こちらがやつれた姿での再会だから、何だか複雑な気持ちになった。さらに年を取った場合を考えるとどうだろう。たとえば介護施設に入所したとき、介護士が教え子だったら、こんな再会になりはしないか?

『さあさおじいちゃん、おむつ取り替えますよー。って、あ～先生!』

想像しただけで顔が赤くなり、穴があったら入りたい。 年を取るのも覚悟が必要だ。

